

古今和歌集

蚊田蒼生
校訂

上

2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3



やまとうらひのひとのあらしをたねとして。よら佐のちとの葉とん
 あせとける。よの中にあるひと。こまごまが志がきこものなまごだ
 ちるよあめふことをする。あめさくあめははる。いひいごさる
 あめ。あまかくりうぐひす。あよすむのまびのこまをまらば
 いまといける。あめいばさくあめをよまごまなる。ちのうらとま
 いまびりあめつちとごう。あまみえぬたお神をもあをれと
 かめいせ。あまこ女の中をまやれいげ。たまごまのあめ。あめこは
 あまごまのあめ。あまこ女の中をまやれいげ。たまごまのあめ。あめこは
 よりいごまより。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。
 せよつこまをこまらば。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。
 ちのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。
 あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。
 より。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。あまのうらまのあめ。

是より下細
 字の形皆違
 人のそへん
 へ

よめちうたを
なくさしえぬ
けられおれを
かみかして
まはは初を
くろ細を本
とんとあれ
とん

一のたるあしぬががひとつゆのめが申して。かやうとを直とせめぞこの
つまれび人のかいとあつもの。福ねるよめおれをちりあしをちりめをじやちりあしをちり
まき。ぶんやのやすしむねた。あしをちりていこよて。そのさやよめ
おちすいも。あき人のよまらぬもたつむがあげ。い。ちりよめ
しをさるる。びやまらぬせをちりていふん。縁のさるる。ちりよめ。ちりよめ
くさふらさるる。のたまかげうして。目のかせ。ちりよめ。ちりよめ
ね。させん。あしをちりすりあして。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
いと。秋の直と。ちりよめ。あしをちりて。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
か。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
め。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
か。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
そのさやよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
そのさやよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ

めるのちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
このちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ
ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ。ちりよめ

古今和歌集卷第一

春歌上

ふるところふだるなちなる日よめる

年のうちふさるるふれよりいと世をこぼとやいもむあはれやん 左京元方

またたちなる日よめる

そぞろちてむさびいぬのこゝろをまたたつるの風やとくらん 紀貫之

歌一しうび

春がすこたてるやいづこみずし野のすけ山よ春のふをば よき念

二條のきささけの春のちがいの歌

春のうちふさるるふれよけいさひすのこわれぬ泪いもやとらん

歌一しうび

うめがえはまきうさひす春かけてふけむいもささけのありつ 後人

春のよまふまかぬるとよめる

またたてば若とやいもむあはれのかれる枝よりさひすのふく 素性法師

歌一七

ふざくくちめてしりはまばさえあねおのまをらうゆむ

よき人
あはれ

ある人のいづくもさあのおかきねをいさうちあねのいさし

二條后のまきのこやすむねときこえける時。正月。日。

はまふゆめくちをせごあるはひびきま。日。てりあが

らさの。うらふそかまけるをよませぬひらる

たるの目のむらうあはる。ああねが。いらのちをたさるどじびき

よき人
あはれ

ちののうらうらる。よよねる

おぬたちのめもさるの。ちをあまむ。あまをさるあはれうけ

よき人
あはれ

たるのねまよあはる

まもやとまよあはれまよとまよ。まよまよ。まよまよ。まよまよ。まよまよ。

よき人
あはれ

たるのまよあはれまよ

たるまよあはれまよ。まよまよ。まよまよ。まよまよ。まよまよ。

よき人
あはれ

まよまよあはれまよのまよあはれまよのまよ

谷風よくくるあやめあままでふうちいづるはやまのまらま
まの香を風のなまりおなごてど。まよまよまよまよまよまよまよ
うぐひまのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

歌一七

将ぶちのくあやめあままでふうちいづるはやまのまらま

よき人
あはれ

かまが将のりいあやままよまよのまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

みままよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

あつさうれまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

たすひらる歌

あつさうれまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

あつさうれまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

くつぶあまみよあたる

う免のむよわをさるくつ山家よこゆねをさるくどあける

つあき

自れも梅をさるくつ人のいひはさるくつをさるくつ

月よよいそねもさるくつ免のさるくつをたづねをさるくつあたる

うたね

さるくつよ梅のさるくつをさるくつ

まのよれやこわあやし梅をさるくつをさるくつえねあやしかく梅

さつせよさるくつづるあさあさりける人のあまをさるくつ

やさるくつであさるくつて後よいさるくつをさるくつあまのあまがく

ささるくつあさるくつやさるくついあさるくついしりてさるくつあまがく

またさるくつさるくつあまのさるくつをさるくつあまがく

人のいざんもさるくつあまのさるくつをさるくつあまがく

つあき

あまのさるくつあまのさるくつをさるくつあまがく

さあさるくつあまのさるくつをさるくつあまがく

いせ

あまありさる梅のさるくつをさるくつあまがく

くつとあくとあさるくつあまのさるくつをさるくつあまがく

あまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

梅がさるくつあまのさるくつをさるくつあまがく

あまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

あまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

あまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

あまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

あまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

あまがく

あまあまあまのさるくつをさるくつあまがく

をのしらべをいげよもあつら橋をいざやどかきちるまをいむ
ゆらゆらあまふくそあきまん気のちりせん後のふくみより
さくらのもはたけやいりさどんはなうでまいたるる

まの
あり

人よよきてかきういなる
こらやのたえんあてふく人いちりぬん後どあひかづぶあ
言ふ子たのふ念のともさよめる

みはね

えんもあまそぬざらの橋をかむのちりあんのちださうま
春歌下

いせ

歌~~~~び

ちるまあたなかにやまのまんいむうらそむとわらあそりゆ
中そといふよちぞいそまらるあまふが何と橋ま思ひまはは
のころあくちるたをいそ橋をありてよの中をそめくけま
けさよまたびね志ねべ橋をかちてのやういよなぢ志せそ
うはまののせまのゆるりちむさくことみもたあつまにかり

はしん
び

信い通眼よよそそかくとけ

橋をかちるあかんちるびとそふるまそ人のまねもんあま
雲林院まてさくしむのちうけをよめ

これ
の

橋ちるまかのまあひまあひさうまどふつさえんがでよま
さくしむのちもゆるりまそそよみ

どう
く

花ちるひのせのやうりいたさうまそあまそいよめえんうい
うそん院まそいそいめま

そそ
い

いそ橋あまちりぬんあまうあまあま人ようまそんくたそ
あひままそりる人のまうでまかかしてにき後ま
よそそ花まそいそはらま

どう
く

いそわいそあまわくろと橋をりいすちみそちあみそちるぬん
山のさくしむとんてよめ

はが
き

まがすいあうくすむむさくむちまよとなかかんぶ物と
あちまそあひこつづひる時はあまそいそ

わたりこめてのこけつるあひだまをぬるさくられ
ちりぐらよあまをまけることしてよめたる

たきこめて喜のひもあぬふすもちし梅もうつりひよけを
木更の枝茂すもさくらのものこらもあつた
ちりてわがきこるこころよめたる

枝よりあまをさぬしむかきびかちて木更のあまこころを
梅のまのちをけしよめたる

あまをさぬさくらのあひぬさくしむこころあまをさぬ
梅のこころこころのあひぬさくしむこころあまをさぬ

さくらのあひぬさくしむこころあまをさぬ
さくらのあひぬさくしむこころあまをさぬ

久こののこころのあひぬさくしむこころあまをさぬ
木更のあひぬさくしむこころあまをさぬ

はくらのちりよめたる

ちりよめたるあまをさくしむこころあまをさぬ
あまをさくしむこころあまをさぬ

あまをさくしむこころあまをさぬ
あまをさくしむこころあまをさぬ

あまをさくしむこころあまをさぬ
あまをさくしむこころあまをさぬ

あまをさくしむこころあまをさぬ
あまをさくしむこころあまをさぬ

あまをさくしむこころあまをさぬ
あまをさくしむこころあまをさぬ

あまをさくしむこころあまをさぬ
あまをさくしむこころあまをさぬ

あまをさくしむこころあまをさぬ
あまをさくしむこころあまをさぬ

ふちの
よめたる

よめたる

よめたる

よめたる

よめたる

よめたる

よめたる

よめたる

よめたる

よめたる

よめたる

だいらいび

まのいらいいらいいねあはじはつさうさうむのいゆらん

よき人

まのあとしよあ

いそ山とあうまかくさうまあ人よーねあもやさくーむ

つやま

うそん虎のいそあゆいこもんよお山のあうりや。

まうれそける時よあ

いざけいあまのいぶまうとてあんくまあげあむのかげは

ま性

まのあとしよあ

いほすをうけまよんあわんあーちうびあひあつぬづー

歌いび

まあ毎いあさううあまあをわひこむこいの命あうりや

よき人

まああのことあゆああづいーむりーあまかーあまあま

ふくらあまあつーいほくあゆああづいーあまあまあま

清人あゆあゆあまあまあひあまああつーあまあまあま

寛平内時ぎさいのあゆあ命のうー

まあああああああああああああああああああああ

よき人

まあああああああああああああああああああああ

え方

まあああああああああああああああああああああ

いほね

歌いび

うーいすのあゆああああああああああああああああ

よき人

あゆああああああああああああああああああああ

あゆあ

あゆああああああああああああああああああああ

あゆあ

みづくをちがが相がせよちるもとなほはなかせりあたらん
そせい

言葉のむのまをくそよか
いほね

歌一しげ

あやうきとていさなはゆのむいさこのいさをまひちり
はし

ちるをふとゆらういさむ世中にいさむともにあいむの
十
十可

花のまじりつるさうねいさよあまよふたが光せまに
十
十可

にわぬ。井ののいやすむぬの家よ。歌合せんしげ

とせい

とせいふんいさよふたをいさむいさむいさむいさむ
とせい

あづきとていさよふたをいさむいさむいさむいさむ
とせい

實年正時。いさよふたをいさむいさむいさむいさむ

まのあまのいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

やまのいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

やまのいさむいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

實年正時。いさむいさむいさむいさむいさむいさむ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

歌一しげ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

あづきと谷のいさむいさむいさむいさむいさむいさむ

よき時をたのむるは人の心なりけり

歌一

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は
かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

棒ちかたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

夏歌

歌一

かたがはくわすの山はかたがはくわすの山は

まきのこころをたのむ

くまらりて秋をわけぬる友のよとわらはずとや山ほしくぎは
たぐぬ
友をまに恋し人や入らむと恋あつらふおなくほしくむす
北秋吟

秋歌上

このあつたまきふりておれをまはれをまはれぬる友のよと
よし人
ほしくまはれのつとまきふりてよとせらる

八月の夜まともらよれおひけをじしとら秋をまらむ
ほろろ
はかひひまてまのこころのあつたうへなるまあつておれを
ほろろ

まのこころのあつたうへなるまあつておれを
よし人
まのこころのあつたうへなるまあつておれを
よし人

山よわらわらまはれのおまきなるまきふりてよとせらる
よし人
山よわらわらまはれのおまきなるまきふりてよとせらる
よし人

あつたうへなるまあつておれを
よし人
あつたうへなるまあつておれを
よし人

秋歌上

おれをまはれぬる友のよとわらはずとや山ほしくぎは
たぐぬ
おれをまはれぬる友のよとわらはずとや山ほしくぎは
たぐぬ

まのこころのあつたうへなるまあつておれを
よし人
まのこころのあつたうへなるまあつておれを
よし人

あつたうへなるまあつておれを
よし人
あつたうへなるまあつておれを
よし人

あつたうへなるまあつておれを
よし人
あつたうへなるまあつておれを
よし人

あつたうへなるまあつておれを
よし人
あつたうへなるまあつておれを
よし人

あつたうへなるまあつておれを
よし人
あつたうへなるまあつておれを
よし人

秋歌上

あつたうへなるまあつておれを
よし人
あつたうへなるまあつておれを
よし人

もつりまをよめる

清人はあはぬものうらむつ層のらき歌くこゑのせづりまをよめる

え方

是貞のここの家のふか合のうら

秋の男はまろ層のむだまこああるたがままをかけてまらん

より

歌一しは

よき人
しは

こががといふかかせ層のあくなごまらふく風はかまのままより
いとちやも唱ゆるかまよりまらおほのいろともあまをたをまあま
まらまあかすといふまがねの今ぞ歌くある秋ぎりけうま
歌をさむい衣かまらまらたごまら秋の下條もつるひまらま
まのまらあある人のいとまがまのめらの人まらまらまらまら

寛平の時にまらまのまの歌合のうら

秋うせまこゑをまらまわけてくる福の天のとつる層まどあある

まらまら
招れは

かまの唱ゆるまらまらまらまら

うらまこゑを思ひつらねてかまがまのまらまらまらまらまらまら

まらまら

是貞のここの家のふか合のうら

山ざこの秋こそあままらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまら

れく山まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまら

歌一しは

秋をまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

あままらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

秋をまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまら

あままらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまら

歌一しは

秋をまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまら

あままらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまら

あままらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまら

是夜のこの秋のふか合よよめ

あまのくまをぬぎかけしふちをりまくる秋に遊べとよめ

ふちをぬぎとよめと人よはらうとけり

やうりせし人のうらみちををりまますれはさきまほひは

ふちをりますとよめ

ぬをぬぎとよめと人よはらうとけり

歌一しげ

いよよりうききたまふとよめと人よはらうとけり

寛平は時きまひのまのふか合のうら

秋の遊の草のたりとよめと人よはらうとけり

歌一しげ

縁わさる部と草とをまのいづ秋のいづかまよとありける

百学のまのひのうら秋の遊まおひたされむ人ふとがめを

自くまよこのあまのいづむれをぬぎての後うらひぬとよ

仁和のうらとよめと人よはらうとけり

とよめと人よはらうとけり

いよよりうききたまふとよめと人よはらうとけり

まの法いよとよめと人よはらうとけり

里のあまのいづとよめと人よはらうとけり

秋歌下

是夜のこの秋のふか合のうら

ふくうらに秋のふか合のうらとよめと人よはらうとけり

まも本もをりまれとよめと人よはらうとけり

秋のふか合のうらとよめ

ゆみぢせぬとよめと人よはらうとけり

歌一しげ

手務たちて扇をふくぬるがさうのわしたのふか合のうら

とよめ

けり

とよめ

とよめ

ありの
むねを
とよめ

とよめ

魚昭

文彦
彦秀

まの
とよめ

とよめ

神を有志とすまはすこふたうみかひてうつらふこなひのち
ちちち神をひびきのみちをみ思ひきかけしはらふゆめを
と親直時。後修庵の茶は梅の本あるまう。西のうこよ
させつらる枝ののみぢりりめたをける。とうへささあはぬ
をのこころのよきけるついでよよ光る。

後原
かちかん

おちよえといはるとこのまのうはらふいみこを秋のまを光ありり乳
いーゆまうでらる時がとをまののみぢとてよ光る。

はら
あきこ

秋うせのまきり日よりたを山にぬの指もいらはきよけし
よきささのこのまのふか合よよ光る。

あき
たけ

あつ露の色いれと川といふうそ秋のこのまをちよははるそ神
秋のよの露ををほめとわさあがら唐のあまごわ雅とをむん

あき
たけ

たのいーい
秋の清ゆいりこころをおけをこ山このまをれちんをたすうそ光
この山のあとりみよ光る。

あき
たけ

あつ露もーく運もいたくをらぬいり葉葉のこはらりかきよたり

あき
たけ

あつ露もーく運もいたくをらぬいり葉葉のこはらりかきよたり
るあきとく露もまきじとがとまのいりあつのみちを光る

あき
たけ

神のやうちのあつりたまうける時よ。いりたのくもの
紅葉をうんそよ光る。

あき
たけ

ふ早振うこのいりまもまも高もあまのあすうつらひはけを
とそあのこのまのあひのあ合よよ光る。

あき
たけ

あつ露をかさとり山ののみぢをいりあつら人のをささこぞうは
実平直時。まのまのあひのあ合のうこ

あき
たけ

あつ露をかねてとをまもみぢをいりあつら人のをささこぞうは
大和のあまのまのまける時。さうやまよ。お務のたてりる
とんそよ光る。

あき
たけ

たがたあの子たれをう秋まりのさうやまよとたちかまらむ
とそあのみこのまのあ合のうこ

秋き里のなきいふたちどき海山のなき紅葉よをまてよこん
あまの歌とてよめる

修保山のなきその名いりすはきどあまのゆくもあまのいなるる
板上一
こまのり

人のさんざんよ菊よむすびはなをいり急なる歌
あま
ひら

うへ急に秋なきとれやさうさうむまことちあめはさへうせめや
寛平内時、まくの志とよませ給ふまき

久々の雲のうへまはつる菊のむすめをわやまこれなる
あま

去の歌いわざと反上ゆるさきさうりけるとなよめし
あま

あざらまきてつらうまつるとれん。
あま

こまこまのここの歌合のうこ
あま

あまがらむかきむまくのむかいきぬ秋のむさうりなる
あま

寛平内時、まきのあまの歌合のうこ
あま

う急りまきまわちとよまはつるまうりふ秋よあまをんや
あま

おれし法時、せうまなる菊合よまをまをほくまを
あま

まくの志とよませ給ふまき
あま

の涙のうこまきう急なるあまの志とよませ給ふ
あま

秋のせのふきあげなたる志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

仙まよ菊とつけく人のいたまきうこことよませ給ふ
あま

ぬきそあす山のまきの志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

まくの志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

花うつ人あつとまきあつたの袖うこのをわやまこれなる
あま

大沢の池のうこま菊う急なるとよませ給ふ
あま

あまの志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

あまの志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

あまの志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

あまの志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

あまの志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

あまの志とよませ給ふあまの志とよませ給ふ
あま

おきさざのこのかおのふか合のうこ

つがまのうかおまおまびくおままよのこのまのちりともがまよ

神なびのこむろの山と林ゆらびもきたさるるちりともがまよ

おまよのみぢをくむとてまうれまけるともまよある

ふる人もなくておぬるかくやまのみぢのよるのみまきたりる

林のうこ

立田畑たむく神のおまびこと林のこのまおぬきやちりともあ

小新といさころよすく侍る時かみぢとてよある

林のやまのみぢをぬきとも向まむもあさだ旅こちする

神なびの山とすまてたつこ海をけりける時よおまあ

のみがまけるともある

神なびの山とまぎゆく林をまを立田はまぬきいたむく

寛平時時きさいのまのふか合のうこ

おまよ林のこのまのうかぶるとおまのあがせらるるちりともある

おきさ
かま
つが
ふり
やが
かき
うせ

たつこ海のちりまてよある

おまよのあがせまをせむ立田はまの林とたまきりあま

志賀の山こえまよある

山がまよ風のけたるまがみいあがせまあぬらちたをま

他のちりまておまのちりまをよめる

風ふなむらのみぢをぬきともあるねかけまてこまあつ

まよまのち屏風の影よ川まむとする人の紅葉

のちりまのこのまをむらてたてるともあまをたま

ひまをれまはらうまつまをまは

まよまのこまをむらむらみぢをいおとふるまあいまま

おまよのこのまをまあ合のうこ

山田と林のまをまよなくおまのいたまをせまのままごんり

歌いしげ

まよまおぬ山田とまよまよちり衣のまのまよまぬきぬ日をた

たがね
よま
しげ

かきる田よおちるむつはちよおぬいよとけさうよあきたそぬが
お山よ倍は魚昭とたけがままふれまらるよよ先る

とせい

のみぢをい神よこま入くもい出るん林のきりとりん人のあ
寛平は時ふるさ歌たてま法ましかるせぬはま
立田はのみちをあがるといふあをあきてそのれ
あじあらしとよめまなる

おき
りぜ

海やまよりちくるあの色きて秋のりきりとあひきりぬる
林のまつるんと立田川は思ひやまてよめる

は
わき

自毎よのちをあがすたつこはるまや林のとまりあるん
あが月の法こもその日大井よてよ先る

夕月秋とくらの山はたなく一はあ名のうちまや林のるむ
おちまつごの日のよ先る

道あつたつともたけむのちまをぬきとたむけて林のりきり
あ歌

こはね

歌一
山六

笠田川はきかりく神月あふれの雨とたてぬきあて

は
い

あまのあまてり先る

あまざくあまざくひしおちるをける人もあまをぬかと思は

ま
子

歌一
山六

大その月のいろもさよけまぬらあどあけこりるは
夕ままばあらのまもみより燈のまけやまにまをふるし
七よりのまてふあまをすまをたあふれるあま
ふるまをたけぬしわりの山のたふあまを今まま
あのはまのみちをあがるあまのまげのあま今まま
ふるまをたけぬし燈の山ちけまを目もまをぬ目
まがあまをまあまをたけふまをてまをま
あまのまをまを先る

は
い

あまのまをまを先る

あ
ま

志賀の山おえよてよめる

あつちのしこちもさうすふまけにいそやまもあむとことと針

あきね

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

みよし野の山おえよてよめるしふるさとしむくふりやまらる

こまのり

寛平は時きさいのまのりかぬのうて

うらちりくふりくちのまのり松の松山こすうとぞえん

あきせ

こよし野の山おえよてよめるしふるさとしむくふりやまらる

あきせ

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

大おのふまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あつちの山おえよてよめる

あきせ

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

あつちの山おえよてよめる

あつちの糸はまうれまらる時やどれりなるほまてよめる

あきせ

とりのちてよよ先る

わら玉のちのちまもみかゝることみまもつが身もふりまきりつ

え方

寅年時ささいのちのち命のうへ

ちふりてさめくねるとはよこはしひまのみぢね招もさる

よじん
しんげ

年のちてよよ先る

まのちといひさくとくしてあまうほあがきてをよき月日あり

まのちの
つしき

歌をまきとちせし時よよてたてまひま

いとちのちとあまうれまはるらんかたさくよくれねとちんげ

はら
めさ

賀歌

歌一しげ

お君のちまよちよにさすけたのいそやとあまて昔のむすまて

よじん
くしん

けし川海のをまのちさことをたつて君がちとせの海をねせん

志んやまささてのいさよまむお君が代をねちよとをね

ころがよまひ君がちよにちりてくくくあまていひてませよ

仁和時俗い海照ふ七十夜ねひらるとれの夜歌

かゝけどよまかよとあかて君がちよよあまよまのち

仁和のちのちのみこまをうわくく時よはをのち十

の夜よ志んちよとつえよつくれまらると見てかろ

かまよかまてくよ先る

ちまやぶる神のまらんはくくくいとせのまらとく

海照

ちまよのちはいすうち君の四十の夜九條のちよ

しけるともまよよ先る

さくちちりかひとれかいつくのまむといまをさまをふか

ちり

さくちとせのちのちをのよそちの夜を大井よ

こまの月よ先る

か先のちの山のいそとあてつる統のちまちよのかげら

まの
こま

さくちやすのちのちのちのちのちのちのちのちのち

なるは屏風よさくくくくくくくくくくくくくくくく

たるくしかけるをよきたる

おき
うぜ

いたづらよまぐる月日わかれやえむをいへははをそまをき

わとやまのうこの。七十の夜のうしろの屏風よよ

つ
ゆき
ま性

いふしよあまきほほすいあねとせのほろをまをトめん
ふして思ひなきてかふるよるはよの神をまろらんが思のいぬ

よる原と若く六十の夜よよみける

まげ
たげ

はるりゆとちとせの夜いあねなくよあねんよあせちてま

まのよあ。ある人。ま原の時をるがともいふ。

そせい

よるはよとせの夜いあねなくよあねんよあせちてま
内侍のりよのち大ねあ原の四十夜しけるとせよ
四季の繪りたるうしろの屏風よりきたるはるあ

ま

ま日習よつらつとほよるはよといふふん神をまをき
山たうみまねよあるよとむあらのあまをね目をあは

夏

まのり

あつとまこころあななくよあねんよあせちてま

杖

うつね
た
これの

住のえのねと杖をせよくうらにまうちをふるあまをき
ふるあくさやのほあねたもねり山ののまといろあまのゆ
あまこれとをともなうあねをよそののまをきと風がき

冬

つ
あま

あまのあましく時いみしむのあましたせよまをきあけ
あまのあましく時いみしむのあましたせよまをきあけ
あまのあましく時いみしむのあましたせよまをきあけ

離別歌

八卷

歌一〇七

ままらけいふかの山のほはあはるまつらうきりばいあかしてまも

ままらけい
あはるまつらう

すがるねく杖の杖原あさなちてたびゆく人をいりりあこ

かざりのたまきあかぬよそまはるる人さんよあはるる

おぼのちよるがらちのいあはけよあはるる時よあはるる

たちねのちやあひのこあひそまをわたりせきあはるる

あはるるのこいあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるる
あはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるる
あはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるる
あはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるる
あはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるる
あはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるる

人やおもたふし 船はあつちうへいしとひく 船がきん

今ういこ船よりかゝる船とて船がひひたるをうよよあたる

あつちうへいしとひく 船がきん

船のあつちうへいしとひく 船がきん

かくまひあつちうへいしとひく 船がきん

うはこえてよりきもあくらあつちうへいしとひく 船がきん

大はのちあつちうへいしとひく 船がきん

船がゆくあつちうへいしとひく 船がきん

人のあつちうへいしとひく 船がきん

しるる時よあたる

夕ぐせのまがたいやまきとんえあつちうへいしとひく 船がきん

山はあつちうへいしとひく 船がきん

夕ぐせのまがたいやまきとんえあつちうへいしとひく 船がきん

うらまんのこのの念村念念あつちうへいしとひく 船がきん

船がきん

船がきん

よせうへいしとひく 船がきん

やまのせまはあつちうへいしとひく 船がきん

あつちうへいしとひく 船がきん

仁和のらうへいしとひく 船がきん

しるる時よあたる

あつちうへいしとひく 船がきん

かんちのあつちうへいしとひく 船がきん

へてあつちうへいしとひく 船がきん

いひあつちうへいしとひく 船がきん

杖をさのあつちうへいしとひく 船がきん

しるる時よあたる

あつちうへいしとひく 船がきん

かねのあつちうへいしとひく 船がきん

夕ぐせのまがたいやまきとんえあつちうへいしとひく 船がきん

夕ぐせのまがたいやまきとんえあつちうへいしとひく 船がきん

船がきん

歌一うた

わろす志とくつし袖の志ぶむつるがたうとほみてぞ抱く
かきりねくちりおきとんをぶちぬる袖のうたかおをんおまよ
うたくりしおとそふたむさるるさかやねまきせせきとめん
志ひてあく人とそむさくむさくむさくむさくむさくむさく
志がの山こえまそる井のめとまそ抱ひしなる人の
まらむせなるたをまよよめなる

よこ人
しん人

ほら
ゆき

とら
のり

九卷

羅籠歌

あまのちしふとさけし世をながるるさの山はいでし月も
志のちりむりしあらまろをのろあしお抱あつしよ

あ倍
仲磨

つらしたるはなるよあまこの事とてえたりいまうて
こざりらるるをこのくまう。又つらひまをといりけるふた
ひてまうむきねんとていでたまなるよめいあうといふ
の海ぶまてかぬくにの人うまのをねむけしりよま
わうて有のいとあしりさくし出たまなるをさ
よあるとねん。さしをほらるる。

あまのあまはたされなる時はねまのりていでたつとそ
えあるる人のめとま。ほらうらうらまほ

小野
のり

歌一うた

みやこいでらるるのまらいつら海をたせさほまらよかせやま
ほめいとあうけうらのあまをま志おがれあく新をむさ
けねいある人のいんかまのめこの人おらうら。
あつまのうらうら友とする人。むらうらうらうらうらひてい

夕。とほのくよ。八橋といふはよりのしほつらなるよ。そののの
ちとりのよがまつをこいとちのちとりのよさなりなるをかんき
木のりげよかきおき。かきつをこいとよふあじと句の
の。らよまきき。たびのふとよあむとしてよれる
からちるまきつあまはしおまきびをるかぬるたびと
むさしのみとあゆのつおさのくよの中よあるまきと
海のちとりにいりてみやこめいとあしりかをえられた。
志せし。のちとよまおまおき。思ひやまびかきりぬくとや
くまきよなるちとちとあまひりびとあがめとよ。いしち。
ちやあまのれ。ぬとぬれぬといひらまびかよのりて。後らむと
するまらふ人ののびりて。あま思ふ人をくしとあし
ず。さるまきよあまさるのちとけいとありまき。川の
るとりよあまひり。あまのんぬるちとらまわれ。いさ
人かみらび。いしちよあまの何なることひけまび。

あま
あま

こまきんやこ香といひらるるをきいてよれたる。

名あかきいざあまもむまよこ香まが思ふ人のあまあまやと
歌一うけ

あま
あま

まきゆくあまをぬるはきてあかきたただかふるよめる
あまのあおる人男女あまのまよ人のくまよよりなり
とこいよりまよいりてまよのちまよよりまよいりまよ。女
むとり。まよいりまよなる。いさちよがふるあまの何なる哉
まいてよれるとまんよ。
あづまのりこより。まよよりでくとしてまよよよめる
山くけまよのかまよ。たうらあまといひまよのまよひあるん
ここのまよよりまよの時。あま山とこよよれる
清まつる時。あままよいりまよのまよのまよまよあま
あままよよりなり。まよとまよまよよめる
いとよめるものあまぬくにまよれ。あまのんあまよよまよよらふ

あま
あま

かひのくまよまらるる時。たまたまある。

表をきもくちをいねおとしひつ。草の枕はあまらうじはね

たちよのくまの湯しやうらるる。ときよふいこのうら

せいふはよとまりて夕まりのめくきいたうらるる。

よのおおまらるる。夜よみらるる。はいでよよ免る。

夕づくよおつらるる。ときよけふこの湯のあけてこそ免

ちきしうらのこのよおまらるる。時よあまの

の川といはの川のやうらまおまらるる。さけまこのなる

ついでまのひひらうかましてあまのうらまらるる。

とくまよまらるる。うらまらるる。いひはまをよ免る。

かまらしたまをうらまらるる。かまわまのうらまらるる。

みこげまをかうらまらるる。よまらるる。えまびあまらるる。

はまをよまらるる。よまらるる。

よまらるる。よまらるる。よまらるる。よまらるる。

あり
ひら
か
け

朱雀虎のあまらるる。はらるる時よ。たむけ山よてよ免る。

けたひいねきもとまらるる。さくまの山のみちの縁神のまらるる。

手むけまらるる。の袖まらるる。よまらるる。かやうえん

物名

うらまらるる

あまらるる。あまらるる。あまらるる。あまらるる。

あまらるる

くまらるる。くまらるる。くまらるる。くまらるる。

うらまらるる

はらるる。はらるる。はらるる。はらるる。

か

たのよまらるる。たのよまらるる。たのよまらるる。たのよまらるる。

う免

あまらるる。あまらるる。あまらるる。あまらるる。

よ
免

うよせきん

かつげども浪のあうまはくく〜秋かぜや〜といはれしあづもむ

つかさ

すめいのむ

今いんくもすなはきづうふひもあめりあがめておのふづり也

ふらぶ

かゝるものむ

あうらもよのいたほこそかおれねさうれたとをかねてありしを

ふらぶ

たちをね

あ〜川の山たちをふきけりさのやと〜とめぬ世はむらりれ

あけ

をうこまの本

みよ〜雪のよ〜は流まうかびづるあつさうたはのまゆとつる

とものり

やまがきの本

林の事ね余やまがきのま〜はひよぬ〜ありん風のさ〜むさ〜す

よ〜ん

か〜く〜り〜ひのま〜れ〜あ〜る〜人〜と〜い〜は〜し〜と〜思〜は〜れ〜

人めゆゑのちよあひのま〜は〜け〜い〜つ〜い〜ま〜は〜や〜思〜ひ〜ま〜されん

く〜い〜に

ちよゆゑのちよあひのま〜は〜け〜い〜つ〜い〜ま〜は〜や〜思〜ひ〜ま〜されん

る昭

さ〜い〜び

ま〜れ〜い〜ら〜さ〜い〜ひ〜ま〜ぞ〜い〜る〜あ〜の〜ち〜を〜わ〜さ〜る〜物〜と〜い〜ふ〜づ〜ら〜り〜

つかさ

ま〜い〜ら〜さ〜い〜ひ〜

ま〜い〜ら〜さ〜い〜ひ〜ま〜ぞ〜い〜る〜あ〜の〜ち〜を〜わ〜さ〜る〜物〜と〜い〜ふ〜づ〜ら〜り〜

のり

いよ〜あ〜の〜む〜の〜か〜ら〜は〜い〜ち〜あ〜は〜さ〜る〜よ〜め〜る

ま〜い〜ら〜さ〜い〜ひ〜ま〜ぞ〜い〜る〜あ〜の〜ち〜を〜わ〜さ〜る〜物〜と〜い〜ふ〜づ〜ら〜り〜

つかさ

ま〜い〜ら〜さ〜い〜ひ〜

ま〜い〜ら〜さ〜い〜ひ〜ま〜ぞ〜い〜る〜あ〜の〜ち〜を〜わ〜さ〜る〜物〜と〜い〜ふ〜づ〜ら〜り〜

のり

ま〜い〜ら〜さ〜い〜ひ〜

ふもまきいづかふるちのまむとあしをまひぞうつらひなる

やうたんのまき

あやめのまきふらふらとまきうらむのまきあやまきまきまき

まき

あつとてたのむどかいたうのまきをまきしや思ひなは

けまこ

うち法まきまきとやまのまきとむちまきまきまきまき

二條底まきのまきまきとまきまきまきまき

まきをまきまきまきまきまき

まのまきまきまきまきまきまきまき

まのまき

山たらのまきまきまきまきまきまきまき

まき

ふらまきまきまきまきまきまきまき

平
あつと

らまき

うらまきのまきまきまきまきまきまき

かまき

ぬまきのまきまきまきまきまきまき

まきまき

まきのまきまきまきまきまきまき

まき

命まきのまきまきまきまきまきまき

まき

まきのまきまきまきまきまきまき

まき

まきのまきまきまきまきまきまき

まき

まきのまきまきまきまきまきまき

まきの
めれと

たし 形つ先 くるみ

おちき那ーなびきあつめだうきこはわいなるみせいまたぬ物うら

からあまのいよはまきききのまきる日よ先

波のちのけきかきあまきあゆいまのまきやあつたするこも

いりいさき

かぢよあまの浪のまづくとまきあまのいりいさきあまのこも

かぢよあま

かのうこいりうらまきあまのいりいさきあまのこも

浪のまきあまのいりいさきあまのこも

かみやがた

うをまのまづうらまきあまのいりいさきあまのこも

よまがた

あしりの山ごまきあまのいりいさきあまのこも

うこの

まき

お信
はちねト

かぢよの
あまき

あまの
はちね

あまの

あまの

交筆のうらまきあまのいりいさきあまのこも

うこの

林のうらまきあまのいりいさきあまのこも

百ね香

あまのいりいさきあまのこも

あまの

あまのいりいさきあまのこも

あまの

あまのいりいさきあまのこも

あまの

あまのいりいさきあまのこも

あまのいりいさきあまのこも

あまのいりいさきあまのこも

あまのいりいさきあまのこも

た
みね

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの



